

令和3年6月4日

嬉野市議会

議長 田中 政司 様

総務企画常任委員会

委員長 宮崎 良平

## 総務企画常任委員会報告書

令和3年3月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する。

### 付託事件名 消防・防災事業について

#### 【調査理由】

嬉野消防署庁舎の老朽化及び狭あい化のため、新嬉野消防署庁舎が新築移転されるにあたり、複雑多様化する災害から市民の安心安全を守るため、迅速的確に対応できる消防庁舎の在り方と、火災・事故・災害時の対応の一連の流れについて調査をおこなった。

【調査日】 令和3年4月20日 13:30～15:30

【調査場所】 杵藤地区広域市町村圏組合 消防本部

【対応者】 杵藤地区広域市町村圏組合 消防本部

消防長 川崎 学 氏

外5名

### 新嬉野消防署庁舎建設について

#### 新嬉野消防署庁舎建設の基本方針

嬉野市より用地提供（無償提供）の協力のもと、老朽化及び狭あい化が著しい既存嬉野消防署庁舎を新築移転し、執務環境の改善と訓練施設の整備を行い、住民サービス及び消防技術の向上を図り、複雑多様化する災害に対して迅速的確に対応できる消防庁舎を建設するものである。

### 既存嬉野消防署庁舎の現状

既存の嬉野消防署庁舎は、昭和 49 年 4 月の落成運用開始から 46 年が経過し老朽化が著しく、庁舎施設の維持管理が困難な状況である

また、庁舎延面積が 574.28 m<sup>2</sup>と狭あいで、効率的な執務スペースや安全な緊急車両用車庫のスペースが確保できていない状況である。敷地面積についても 559 m<sup>2</sup>と狭あいで、訓練施設が設置されておらず、一部歩道上での訓練や車両点検を迫られ地域住民へ迷惑をかけるような状況もある。

### 新嬉野消防署庁舎の概要

- (1) 建設地：嬉野市嬉野町大字下宿字一本松甲 15 番 1 外 6 筆
- (2) 敷地面積：6133.45 m<sup>2</sup>
- (3) 庁舎棟：鉄骨造 2 階建て、延面積 1330.57 m<sup>2</sup>、建築面積 823.04 m<sup>2</sup>
- (4) 主訓練棟：鉄筋コンクリート造 4 階建て、延面積 209.10 m<sup>2</sup>、建築面積 64.00 m<sup>2</sup>

### 建設工事等スケジュール

- (1) 庁舎棟及び主訓練棟建設工事：令和 2 年 11 月 18 日～令和 3 年 12 月 22 日
- (2) 敷地外構工事：令和 3 年 10 月上旬～令和 4 年 1 月下旬
- (3) 庁舎移転時期：令和 4 年 2 月上旬予定

### 新嬉野消防署庁舎の特徴

- (1) 消防庁舎の更新と訓練施設の充実により、執務環境の改善、来庁者の利便性及び消防力の向上を図れる。
- (2) 女性用施設の整備を行い、女性消防職員の就業環境整備、庁舎見学、研修会等で女性が来庁しやすい施設環境を構築できる。
- (3) 多目的に使用できる会議室を整備し、消防行政に係る各種講習会、会議等を広く住民の方へ行い、住民サービスの向上を図る。

## 杵藤地区広域市町村圏組合消防本部と連携について

### 杵藤地区の消防力

- ・ 4 消防署（嬉野・鹿島・武雄・白石）3 分署（太良・山内・大町）
- ・ 消防ポンプ車 4 台（各消防署に 1 台配置）
- ・ 水槽付ポンプ車 8 台（4 署 3 分署各 1 台及び武雄署に予備車 1 台）  
水槽容量 1500L
- ・ 救急車 9 台（4 署 3 分署各 1 台及び消防本部・鹿島署に予備車各 1 台）
- ・ はしご車 2 台（嬉野署 35m 建物 12～13 階相当）  
（武雄署 16m 建物 5 階相当 特殊なはしご構造）
- ・ 救助工作車 1 台（武雄消防署配置）  
人命救助に特化した約 200 種の資器材を搭載した車両
- ・ その他  
クレーン付積載車や水上バイク、マイクロバスなど災害種別に応じて出動

### 指令センターの役割

高機能消防指令システム・・・119番通報を消防本部指令センターで一元的に受け、緊急車両への出動命令、情報共有による出動部隊への支援を行い、迅速的確な消防活動をフォローするための通信指令システムである。

固定、携帯のあらゆる種類の電話からの119番通報に対応し、通報地点、災害発生地点を素早く確定させ、適切な活動部隊を自動的に編成し、迅速な出動指令を行い、現場到着までの時間短縮を支援するものである。

### 災害対応

全ての災害は出動計画に基づき出動され、基本的には第1出動として火災出動で2隊出動する。状況により第2、第3出動と上位に移行。

救急出動においては通常1隊3人で活動するが、1隊では救急活動が困難と判断された場合、ポンプ車に乗った消防隊がサポートで出動する。

### 自然災害時の市町との連携

近年頻発する自然災害等に対応するため、緊急時に消防本部災害対策本部から各市町の災害対策本部へリエゾン（連絡員）が派遣され相互連携強化に努めている。

## 委員会の意見

近年、各地で激甚化・頻発化する自然災害が発生している現況の中、わが嬉野市においてもここ数年毎年のように大雨特別警報等が発令され、近隣市町村においては人命を失うような異常事態にまで深刻化している。

そのような中、地域住民の安心安全を守るため、消防署の果たす役割はますます大きくなっている。そこで現在建設中である新嬉野消防署について、杵藤地区広域市町村圏組合消防本部へ調査を行った。

新嬉野消防署庁舎建設においては、議会の中でも質疑があった、大雨時の消防署庁舎敷地内における冠水のリスクについて、今回の視察においても質問が出たが、冠水リスクはないが消防署周辺が冠水するリスクは考えられる。そのような場合には、事前に消防車両や資器材一式を市と協議し別の場所に移動させるという対策を考えられていた。

また現在嬉野消防署に配属はないが、杵藤地区圏内の消防署には2名の女性消防隊員が救急救命士として活躍されている。今後女性職員を全体の5%に引き上げる目標であり、女性職員が働きやすい就業環境の整備を考慮し、新消防署庁舎においては女性用の仮眠室が設計されていることに、女性が働きやすい消防署としての変革を感じた。

またここ数年続く自然災害が起きるものと想定される状況下の中で、新型コロナウイルス感染症及びその疑いがある救急要請においては、より緊迫した状況の中での対応となることが予測され、現状でさえ防護服着用、車内の徹底消毒など、これまで以上に精神的、肉体的に過酷な現況に身を置かれている現場の状況をしっかり把握し、命懸けで市民の安心安全を守っていただく現場の方々に市としてどのようなサポートができるのか、また市民にどのような啓発ができるのかをあらためて私たちがもっと深く思慮し活動に移していくよう努めなければならないと感じた。